

ご意見の内容及びご意見に対するご回答

意見提出元：一般社団法人 ZigBee SIG ジャパン

No	該当箇所	ご意見の内容	ご回答
1	「Ⅲ. 無線マルチホップネットワークのシステム構成 Ⅲ-3 通信ユニット概要」	<p><意見内容> 相互接続性や調達の容易さ、国際的な普及も考慮して、国際的な潮流を把握した上で、国際標準方式、または国際標準として審議中の方式を活用すること。</p> <p><理由> B ルートを実現するために、スマートハウス標準化検討会のまとめに準拠する方針であることは評価する。 ZigBee SIG-J は、スマートハウス標準に準拠した B ルートの通信方式として、920MHz ZigBee IP の活用を提案する。 ZigBee SIG-J では、この規格の国際標準化を進めており、また、普及に向けて協力している。 通信プロトコルスタックは下記のとおりである。 ・PHY/MAC は IEEE.802.15.4g(920MHz 帯無線)、IEEE802.15.4e(省電力機能) ・NW レイヤ: IPv6 PRL、6LoWPAN ※別紙1に通信プロトコルスタックを図示する</p>	<p>スマートメーターと HEMS との情報連携(B ルート)については、「スマートハウス標準化検討会中間取りまとめ」(平成 24 年 2 月 24 日)の結果にしたがって、IP および ECHONET-Lite を実装することとします。また、伝送メディアの通信仕様については、いただいたご意見も参考にしながら、当社も参画する「スマートハウス・ビル標準・事業促進検討会(事務局:経済産業省)」等において提言を行うとともに、当該検討会等での議論を踏まえて仕様を策定し、実装することとします。</p>
2	「I-3 スマートメーターが実現する機能(4)～宅内通信機能～」 「Ⅲ-3 通信ユニット概要」	<p><意見内容> スマートメータの通信部の A ルート、B ルートを共通化することで、低価格メータを実現し、B ルートの普及を促進する。</p> <p><理由> B ルート向けの通信部を外付けタイプとして、HEMS 導入時に追加する構成とすると、B ルート導入コストが大きくなり、HEMS や B ルート普及の妨げになることを懸念する。B ルート向け</p>	<p>スマートメーターと HEMS との情報連携(B ルート)については、「スマートハウス標準化検討会中間取りまとめ」(平成 24 年 2 月 24 日)の結果にしたがって、IP および ECHONET-Lite を実装することとします。A ルート、B ルートとも複数の通信方式から選択すること</p>

	<p>の通信機能も一体として搭載したメータの普及に努めること。</p> <p>A ルートと B ルートを別々の通信方式で実現すると、通信部のコストが増加し、メータ全体を低価格で抑えることは、非常に困難である。A ルートと B ルートでハードの共通化および通信方式の共通化を図ることが、B ルート普及へ向けた最善の策と考える。</p> <p>回答①にて、B ルートとして 920MHz ZigBee IP の活用を提案しており、A ルートとしても 920MHz ZigBeeIP を利用することを提案する。ZigBee IP は、6LoWPAN/IPv6 RPL の組み合わせで構成される通信方式であり、A ルートとして活用することも想定されている。</p> <p>※ 別紙 2 に通信プロトコルスタックを図示する</p>	<p>から、2 チップで対応することとしており、モジュールの共用／分離については、機能実装上の得失、コスト面等を勘案の上、最適な方法を判断してまいりたいと考えております。</p>
--	--	---